

和光会会報No. 52

－菱電サービス（菱サ）～三菱電機ビルテクノサービス（MELTEC）本社OB会－

◆ 旅の理屈とくるま旅へのお誘い …… (2017-12) —山本拓弘さんから投稿頂きました—

今まで、ずっと旅で拾ったテーマについて感じたこと、思ったことなどを書き連ねて来ましたが、今回は少し向きを変えて、もう一度何故くるま旅をするのかという理屈を書くことにします。これは埋め草原稿を投稿させて頂いた最初に、長々と述べた理屈の繰り返しとなるのですが、くるま旅を始めてから間もなく20年を迎えようとしている、その経験・体験を踏まえて、今現在も思っている事柄について強調したいと考えるからなのです。すなわち、旅の素晴らしさ、旅の持つ力をアピールし、誰でもその気さえあればそれを味わうことができるのを知って欲しいと願うからです。

和光会の皆様は会社を辞められてから後、新しい知人がどれほど誕生したでしょうか？新年を寿ぐ年賀状が、リタイア後に何枚増えたでしょうか？もしかして、ジリ貧になっていて、もうそろそろ面倒だから虚礼的な年賀状など止めにしたい、などと考えるおられないでしょうか。一時自分もそのような感慨に捉われたことがあったのを思い出します。それが誤りとは決して言えませんが、寂しい限りです。

自分はこの歳になって尚新たな知人が誕生するのを格別にありがたいことだと思っています。会社を辞してから20年近くが経ちますが、おかげさまで退職後に新たな出会いで恵まれた知人は、50人以上を数え、それは全国に点在しています。その数を自慢する気持など毛頭ありませんが、新しく恵まれた多くの知人たちとの付き合いは、残りの人生を生きる大きな力となっています。

私は旅というのは人生の宝物探しだと思っています。人は誰でも宝物を求めてその人生を生きているのだと思います。宝物とは何なのでしょう。それは身近に置いて、いつでも取り出して、そこから心を揺り動かされる喜びや嬉しさ、時には悲しさを感じさせられるもの、そしてそれは、自分が生きるための力の源泉となっているものを指すのだと思います。宝石や芸術作品などといった「物」だけではありません。その形は無限であり、生きる糧（＝生きがい）となっているもの全てなのだと考えます。

誰でも幾つもの宝物を保有している筈です。身近であれば親や子や孫、そして親しい知人。或いは愛犬や愛猫などの動物たち。今生きていなくても消えない思い出だって含まれるかもしれません。人や生きものたちだけではなく、景色や場所だって宝物となりうるのです。心を動かし、生きる力を与えてくれるのです。それは無限に存在するのです。

では、これらの宝物はどうすれば見つかるのでしょうか。それは「出会い」なのだと思います。出会いというのは、「出て」「会う」ことです。ここで大切なのは「出る」という動きであり、それは「自分の殻を破って、外して、自ら前に出る」ということです。「心を開く」ということかもしれません。心を開いて会えば、人は宝物に出会い、宝物を拾うことができるのです。つまり、生きるための原動力となるものを獲得することができるのです。「会う」というのは、チャンスということですから、自分がそのことに気づきさえすれば、いつでもどこにでも存在するものです。気づかない限りチャンスは無く、会うこともないのです。

生きる力の源泉となる宝物は、このような簡単な理屈で説明ができるような気がします。つまり、出て会うということさえすれば宝物を拾うことができるということなのです。逆に、なにもしなければ、何も起こらないということであり、生きて動くこと、心身を動かすことこそが生きる証となると考えます。

先に「旅は人生の宝物探し」だと言いましたが、それを言い換えると「人生は旅であり、それは生涯をかけての宝探し」なのだということにもなります。私たちの人生は、生まれた時からそれぞれの旅を開始して、旅行などしてもしなくても、人は皆日々それぞれの旅をしながら、生きがいややりがいといった宝物を探し続け、見出した宝物に支えられて一生を終えるのです。

このように断言してしまうと、自分の行っているくるま旅とは一体何なのということになってしまうのですが、私は人生という旅は、自分自身の意思と行動によって無限のバリエーション（変化）を持つものであると考えています。私のくるま旅は、私自身のリタイア後の人生を生きる宝物さがしの核となるものと位置づけています。「心豊かに、生き活きと生きて、PPK（＝ピン・ピン・コロリ）で終わる」というのが私の老計と死計の柱となる考え方ですが、これを実現させるための要（かなめ）としているものがくるま旅なのです。

20年近いくるま旅の経験から、現在の宝探しの状況を報告したいと思います。最初の頃の宝探しは物見遊山から始まりました。全国の名所旧跡などを所構わず力任せに見て回ったりしていたのですが、だんだん疑問を感じずるようになりました。動き回って数多く観光をしてみても、所詮それは点の移動に過ぎず、ただそこへ行ったという記憶ばかりが増えるだけで、あとに残る感動の思い出は少なく小さいのです。点の旅の積み重ねに過ぎないものでした。これを線の旅のレベルにするにはどうすればいいのか。そのためには何が必要なのか。いろいろ考えた結果始めたのは、旅先の移動を少なくし、一箇所で滞在時間を長くすることでした。するとたくさんの旅の仲間ができました。人は同じ環境で1～2週間も一緒に暮らしていると、自然とお互いに心がバイブレーションする相手を見出せるものなのです。たった一度の出会いだけで親しくなれる人は少ないものです。このようなスタイルの旅で得た知人はかなりの数に上りました。しかし、このような旅だけでは見聞は広がらず、旅くらしは楽しくても何か満たされないものがありました。点や線を超えるレベルの旅とは何だろうと考えました。その結果気づいたのは、点や線などの形にとらわれない、より大きな目的指向の旅ということでした。現在はこれが自分たちの旅の中核となっています。

旅の目的には無数のものが考えられますが、現在の中心となっているのは「日本の来し方を知る」ということです。来し方というのは歴史と言い換えてもいいのかもしれません。この切り口も無数にありますが、今心がけているのは、日本の歴史に係わる場所や物などを中心に訪ね歩くということです。具体例を挙げれば、神社・仏閣・城跡・遺跡・古道（往来）・国指定重要伝統的建造物群保存地区・国指定重要文化的景観・宿場町・棚田等等です。古いものを見るというのは、同時に現在という新しいものを見ることにつながりますから、決して片手落ちとなることはありません。このような目的を持ちながら、様々な出会いを拾っているというのが、現在の旅の実情です。この旅のスタイルでは、一度限りの来訪ではなく、何度も同じ場所へ出かけて行くということもあり、より一層味わいが深くなるということを実感しています。関東に生まれ育った自分には、思いもかけない場所や物を発見することが数多くあり、感動は無限です。

又旅には三つの楽しみのステージがあります。前楽・現楽・後楽の三つですが、前楽は旅に出かける前の計画や準備を楽しむこと、現楽は旅の実際を楽しむこと、後楽は旅のあとの記録や思い出を楽しむことです。この三つを大切にしながら、そこから得た宝物などをエッセーとして残すことを最大の楽しみとして、我が老計と死計を実践しています。

私はメルテックをリタイアした方の中に、くるま旅をしておられる方がいるという話を聞けないのを残念に思っています。旅の持つ力を知って、味わって頂きたいと思っています。何ごとともそうですが、生きているのを実感できるのは、百の理屈よりも一度の実践・体験なのです。特に準老（65歳までの老の準備をする世代）や順老（65～75歳の老に馴れる世代）の皆さまには、是非くるま旅の世界に乗り出して、新しい生きる力を付加して行って欲しいなと願っています。もし興味関心のある方がおられましたら、いつでも気軽にお問い合わせください。くるま旅の必要知識やノウハウについて紹介の労を惜しみません。

（2017年12月記）

◆ 会員の趣味のコーナー

今回から第15回和光会総会の展示作品を3回に分けてご紹介いたします。

今回もこれらを始めた時期(年数)・動機、作品を制作しての喜び(感動)、苦労したこと、「他に取り組んでいる趣味」などを含めて紹介いたします。

なお、出展出来なかった方の作品・趣味についても出来るだけ順次ご紹介をしていく予定です。

◆ 陶芸(4点)

…… (2017-06) —金山 幸雄さんから投稿頂きました—

①黒泥「龍紋様香炉」



2014年度のOB総会にも類似の作品を出品させていただきましたが、龍の表情が気に入らなかったのと香炉としての通気性があまり良くなかったのを、それを改善するために再挑戦してみました。

釉薬は使わずに焼き締めています。

②半磁「龍紋様一輪挿し」



安定性を持たせるために若干底辺を大きくする形にして、龍の文様を際立たせるために円形で囲んでみました。

釉薬はチタンを薄く吹きかける感じで使いました。

③黒泥「樹木紋様急須」



樹木にカブトムシが止まっている様を表現してみました。樹皮と木肌の感じを出すのに苦労しますが、それも楽しみの一つです。

釉薬は内部はなまこ釉を掛けていますが、外側は釉薬を使わずに焼き締め感を出すようにしました。

④備前「酒器セット」



備前「酒器セット」は今回の出品作品の中で唯一登り窯で焼成した作品です。登り窯は電気窯やガス窯と違い、焼成に大変手間がかかります。

この作品はもう 10 年以上前に金沢八景にあった登り窯を使って焼成したものです(現在その登り窯は撤去されてしまいました)。

4 昼夜ぶっ通しで交代交替で薪を炊き続け、更に一週間窯を冷ましてから作品を取り出します。

どんな作品・焼き色に仕上がっているかが楽しみで、窯の蓋を開ける時が一番わくわく・ドキドキしたものです。

この作品は備前特有の棧切りと言われる火色は少ないのですが、ゴマ(黄色味)が若干出ています。形も単に瓢箪型ではなく、下部を箱型にしてみるなどの工夫を凝らしてみました。

◆ 木彫刻

…… (2017-06) —小藤 俊雄さんから投稿頂きました—

①「薬師三尊像」(彫刻) 左から月光菩薩、薬師如来、日光菩薩



今回のモデルは福島県会津若松駅からバスで30分ほどの湯川村にある勝常寺所蔵の仏像です。

平安前期の作と言われ東北地方で国宝指定仏像の第1号です。同時期の京都や比較的当時の都会の寺の仏像に無い素朴な雰囲気気が気に入っています。

◆ 写真

…… (2017-06) —和田 昭喜さんから投稿頂きました—

①「テルテル坊主」(写真半切)「海の貴婦人」



隣町の龍ヶ崎市文化祭にて蘭の展示会を鑑賞の際に花の形が明日の天気を願う、子供の頃のテルテル坊主にソックリなので思わずシャッターを切りました。

竹細工作品は、今年秀作が出来なかったので出品は断念しました。

◆ 水彩画(アクリル)

…… (2017-06) —樋口 義三さんから投稿頂きました—

①「ヨーロッパの名城 ノイシュヴァン シュタイン城」



私はこのお城の実物は見たことがありませんが、たまたま、新聞に写真(A4サイズ)で大きく記載されているのを見て、チャレンジしようと思いました、特に白色(白亜)の部分は色々考えながら描きました。

◆ 訃報ご報告

下記の方々がご逝去されました。改めてここに哀悼の意を表し、謹んでご報告申し上げます。

山口 和夫氏（２０１７年１１月１日ご逝去）（享年８９）

なお、故山口 和夫氏は１９５２年（昭和２７年）三菱地所（株）に入社され、建築設備の設計監理業務に従事し、１９８６年（昭和６１年）三菱電機ビルテクノサービスに転籍、本社技術本部 技術部技術担当部長としてビルシステム事業（ビル診断）の基盤づくりに活躍され、１９９６年（平成３年）１２月退職されました。

滝澤 望氏（２０１７年１１月７日ご逝去）

なお、故滝澤 望氏は三菱電機（株）に入社され、昇降機据付工事などを歴任され、１９８６年（昭和６１年）三菱電機ビルテクノサービスに出向その後転籍、本社ビルシステム本部 本部長付、営業部副部長、特販部部長、組織変更にて１９６４年（平成元年）９月東京支社特販部部長として活躍され、１９６５年（平成２年）７月退職されました。

藤下 進氏（２０１８年１月２日ご逝去）（享年７７）

なお、故藤下 進氏は１９６２年（昭和３７年）菱電サービス（三菱電機ビルテクノサービス）に入社。 本社総務部に配属。本社人事部教育センター、総合生産技術センター総務部、ビルシステム本部、本社ＴＱＣ推進室、本社安全推進本部、大阪支社総務部、本社人事部健康推進センター等で活躍され、２００３年（平成１３年）３月退職されました。

◆ 事務局より

- ・ 和光会会報No.34より「くるま旅くらし心得帖」の山本拓弘氏よりくるま旅について投稿いただいておりますが、今回は何故くるま旅をするのかについて投稿いただきました。

なお、山本拓弘氏の「くるま旅くらし」の最近の様子は下記ブログに載っておりますので是非ご覧ください。

<http://blog.goo.ne.jp/vacotsu8855>

「山本馬骨」で検索しても可能です。

- ・ 「会員趣味のコーナー」では第１５回和光会総会の展示作品の中から、常連となりました小藤俊雄さんの仏像木彫刻、和田昭喜さんの写真、金山幸雄さんの陶芸作品、それに加え、昨年に引き続き出展された樋口義三さんの水彩画の４人の方の作品をご紹介させて頂きました。
- ・ 和光会の連絡・問い合わせ窓口について
第６期より会社（人事部）が和光会を全面的に支援して下さることになり、ＯＢ会事務作業（会員との連絡・通知、１１９４・カレンダーの送付等）を人事部の委託によりMTBにお手伝いいただきおり、MTBの担当は総務・人事支援部（部長：志摩 正樹）で変わりありませんが、会報No.42でご連絡しましたように一昨年第１３期より連絡・問い合わせ窓口は下記のとおり変更になっております。

担当：木村 律子ＢＤ、佐々木 敏行、野原 菜穂

電話：０３-３８０３-８８６５（代表）

FAX：０３-３８０３-８８７５

E-mail：meltec-OB-wakokai@mtb.ssg.meltec.co.jp

住所変更等通常の連絡・問い合わせはMTBの上記和光会担当か、和光会事務局（寺門）で済むと思いますが、会社の人事部の窓口は年金・基金を担当している方で次の通りです。

担当：大嶋 勝則 SK

電話：03-5810-5392（ダイヤルイン）

FAX：03-5810-5501

E-mail：oheki.katsunori@meltec.co.jp

- ・ 2017年度会費納入対象の方は2005年、2008年、2011年、2014年および2015年に入会された方々と、会報No.50でご連絡し、対象者宛に「1194」「和光会会報」送付時振込用紙を同封いたしましたが、会費「4,000円（2年分）」の振り込みが未だの方は次の口座宛振り込み賜りたくよろしくお願い申し上げます。

なお、振込用紙を紛失された方は事務局あてご連絡くだされば再度送付いたします。

振込先：郵便局

口座番号：00100-7

口座記号：650896

加入者名：和光会

- ・ E-MAIL 会員各位へは INFORMATION をお送りしておりますが、最近不達が増えておりますので、**メールアドレスの変更時は速やかにご連絡**をお願いいたします。
- ・ 「和光会会報」・「1194」・カレンダーなどを会員宛送付しておりますが、宛所不在で戻ってくる場合がありますので、**転居・住所表示変更等の場合は速やかにご連絡**をお願いいたします。
- ・ パソコンのある方は、会報や総会写真を下記和光会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.geocities.jp/meltec_wakokai_hp/

皆様の日頃の活動やグループ活動などのお便り・投稿をよろしくお願いいたします。

029-872-4122 mitsuotera@jcom.home.ne.jp

2018-1-11 和光会事務局 寺門 三男